

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市八本松児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3	指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》19,668人（前年度比 91.1%）  平成30年度 21,568人  平成29年度 23,656人  平成28年度 24,505人</p> <p>《事業》  児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》  （ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者に支払った費用 37,607千円（34,391千円）</li> <li>その他市が負担した費用 0千円（0千円）</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用料収入 0千円（0千円）</li> <li>その他収入 0千円（0千円）</li> </ul>
6	利用者の声	<p>《実施状況》  利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。</p>

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認するほかに個人でも年4回のセルフチェックも行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だより、初めての利用者を対象とした冊子の発行、保護者からの要望を受けてSNSをはじめ、ブログの更新や利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	小学生の活動では、高学年児童による「子どものボランティア」を育成し、児童館まつりなどの行事の企画運営に取り組めるようサポートしている。児童クラブにおいては、子どもの要求を大切に、自分たちで遊びや生活のルールを考えるように支援している。保護者との連携では、児童クラブ通信や、送迎の際の連絡を通して、子どもの生活や遊びの様子を伝え、子どもの状況について保護者と情報を共有している。また、親子や保護者同士の交流の場となる「夕涼み会」や「わくわくパーティー」も大盛況で保護者との協力関係を構築している。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（ 特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘 ）による自己評価》
<p>仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い、『地域でつながる・あそびでつながる児童館』を念頭に置いて取り組んだ1年であった。</p> <p>&lt; 児童健全育成事業 &gt;            全ての子どもが利用しやすい環境づくりと共に、人と人が関わり合うことで安心できる居場所作りや、中高生が気軽に出入りでき、異年齢児が同じ部屋で遊べる環境・遊具(バスケット・漫画)等、年上の子に憧れを持ち・年下に優しく接する小中高生の姿が多く見ることができた。</p> <p>&lt; 子育て家庭支援事業 &gt;            乳幼児の保護者からSNSをしてほしいという声から情報発信を始め、SNSから情報を得て来館する保護者が増えている。育児相談なども数件あり、その都度スタッフが丁寧に寄り合いながら次回来館するときにはどうだったか？などを聞き、継続した支援を実施。近隣の小規模保育園が遊戯室を活用したり、保育ママの行事参加など子育て中の保護者だけでなく、保育施設同士が交流するなど繋ぐ役割も担った。</p> <p>&lt; 地域交流推進事業 &gt;            どんどこPJで『子どもたちから発信！まちの防災・減災プロジェクト』を実施。NPOつながりデザインセンター・あすと長町や東北工業大学と、子ども達が参画した”ジュニア防災リーダー”を育成し防災マップを作製した。児童館に宿泊体験する”段ボールキャンプ”も、連合町内会副会長に講話を頂くなど、大人だけでなく子ども達とも災害時に備える体験をすることができた。ヒト・モノ・コトの共有。そして、担い手づくりにも児童館が軸となり実施することで、地域会議で児童館の取り組みを発表することができた。</p> <p>&lt; 放課後児童クラブ &gt;            難聴児も受け入れ、子ども同士が障害があっても友達という意識を持って関わった。一人ひとりが自らの意見を持ち、主体的に過ごすことができるよう『子ども参画』を意識的に取り組み、子どもたちが居なければいけない場所ではなく居たい場所となれる目標が達成できた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>子育て家庭支援事業では、新たにSNSで児童館の情報発信を始め、来館者の増につながった。乳幼児親子向けの行事「ほっとサロン」では、母親のリラックスをテーマとしアロマやベビーマッサージなどゆったりできる内容を多く扱うと共に、子育てに関する情報共有や仲間づくりの支援を行い、参加者同士の交流の場として定着している。</p> <p>健全育成事業及び地域交流推進事業では、どんどこプロジェクトの助成を活用した「まちの防災プロジェクト」が2年目になり、NPOつながりデザインセンターやあすと長町、地域の町内会や大学教員と協働し、「防災キャンプ」や「防災マップ作り」を実施した。この取り組みを通して、児童館の認知度を高め、地域との連携を深めることができおり、積極的に外部プログラムを活用して事業を充実している点が評価できる。</p> <p>また地域の高齢者ボランティアグループと共催する「もちつき会」や「はしまきクッキング」、近隣の保育園や市民センターと共催する「スマイルコンサート」、東長町児童館と共催する「秋休みドッチボール大会」等、地域との関係機関との連携により多彩な行事を展開し、事業の充実に努めている。</p> <p>昨年取り組んでいる小学生行事の「遊びの達人」では、館長が中心になって様々な遊びのおもしろさや道具の使い方を教えており、集団遊びや工作など子ども達の興味や意欲を大切に活動になっている。造形遊びを通して、子どもたちの好奇心を刺激し、豊かな感性を育てている。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課